

ごあいさつ

鹿児島県高等学校文化連盟
会長 田嶋 吾 富

” 47の結晶 桜島の気噴（いぶき）にのせ 紬（つむ）げ 文化の1ページ”

2023年の夏に開催される第47回全国高等学校総合文化祭鹿児島大会のテーマです。

「紬ぐ、キバる、輝く」の基本方針のもと、大会愛称は「2023（にいぜろにいさん）かごしま総文（そうぶん）」で、これまでに、かき氷の白熊・桜島・西郷隆盛などをモチーフにした大会マスコットキャラクターや大会ポスター、シンボルマークなどが決まっており、これらのほとんどは県内の中学・高校生による応募作品から選ばれたものです。

・全国高等学校総合文化祭は、全国の高校生の創造活動の向上や相互交流を深めることを目的に、昭和52年から開催されてきた国内最大規模の芸術文化活動です。高校生の表現活動の舞台が全国を一巡りする2年後の夏に47番目として本県で開催されます。これまでの都道府県がつないできた思いを結晶化し、さらに次の新たなステージのスタートとしてこの鹿児島から高校生のエネルギーを文化の輝きとして放っていきたいと思います。

・現在、コロナ禍にあつて、様々な文化事業や教育活動、大会等（コンクールやイベント）が中止や延期となるなど制限されている状況が続いています。このような状況ではありますが、一方で、感染対策をとりながら教育活動を止めない工夫も求められています。今後とも感染状況を踏まえながらになりますが、それぞれの各専門部の枠を越えて知恵を出し合い、協力しながら進めていただきたいと思います。

・令和2年度、鹿児島県高校総合文化祭交流フェスタ大島大会は大会テーマ「降りそそげわんきゃの文化 虹となれ」の下、WEBリモート開催で行われました。大島地区の各学校の工夫された動画が中継され、またその模様は後日TV放送でも取り扱われるなど初めての試みではありましたが、生徒にとってはとてもありがたく思い出に残るものとなったのではないのでしょうか。このように、それぞれができることを工夫しながら、芸術・文化の灯をともし、つないでくださっている各支部・各専門部の先生方に心より感謝しております。しかし、何と言っても、芸術文化においては、本物に触れることにより10代後半の若者たちの感性に響くもの、その訴える力はとても大きく、また、全国の高校生同士が共に集う場をとおして磨かれたり、多様性を共有したりすることができるのも事実です。ワクチン接種等の有効な手立てが講じられ新型コロナウイルス感染症が早期に収束されることを切に願います。

・新型コロナウイルス感染症に関しては全国的にも先が見通せていない状況ですが、先催

県である和歌山の本大会，東京のプレ大会を参考としながら，県高文連と県教育委員会が連携し，タイムスケジュールに沿った具体的な準備が進められていきます。

全県下から公募によって選ばれた現高1，2年生からなる生徒実行委員会も7月には動き始めます。開催年度には高校2年生は卒業していますが，それでも本番に向けて後輩のために企画・運営の準備を引き受けてくれます。そのような生徒たちのためにも，これから準備に携わる高校生，さらにこれから入学してくる中学生にもその意義をしっかりと引き継ぎ，どうか，令和5年だけをピークとした単なるイベントで終わらせるのではなく，「2023かごしま総文」を一つの通過点と捉え，その後も高校生の表現活動最高の舞台となり，そして，本県の文化活動がさらに飛躍・発展していける催しになることを願っております。

これから準備・検討していくことも多く，皆様のご意見やお知恵をお伺いする場面もあるかと思えます。その際には，高校生の文化活動の充実のためにフレキシブルに対応していきたいと考えております。今後とも鹿児島県高等学校文化連盟に対する御支援と御協力を賜りますよう，お願い申し上げます，ごあいさついたします。